

やまなみ

2011
夏
Vol.5

【特集記事】

東日本大震災 西駒郷にて被災した障害者の一時受入

【連載記事】

事業所リレートーク

チャレンジ・アクション

『「自立」「生きがい」を求めて～A型事業所「わーく西駒」の取り組み～』

つれづれ福祉

『知的障害者の地域生活移行に関する地域生活実態調査・検証事業スタート!』

平成23年度組織概要／平成23年度事業計画・収支予算書

平成22年度事業報告・収支決算書／人事異動／プレゼント

写真提供：安曇野市観光協会 初夏の北アルプス

本年四月、常務理事に就任しました宮之本です。前任の堀米常務理事同様よろしくお願いいたします。

平成二十三年度は、「三月十一日東日本大震災」と「長野県北部地震」とともにスタートしました。

当事業団では、県南部の西駒郷で、福島県いわき市在住の知的障害を持つ方七十四名を一時受入等で協力してきましたが、未曾有の本災害は我々に『自然の大脅威』と『生きていくことの意味』を突きつけることとなりました。

さて、当事業団は、四月より県をはじめ関係市町村と新たなパートナーシップのもと、知的障害児施設「信濃学園」、情緒障害児短期治療施設「松本あさひ学園」の県指定管理と上伊那圏域障害者総合支援センター「きらりあ」の運営を開始しました。

こうして、事業所や職員数が年々拡大する状況にあつて、各事業所が圏域や地域ニーズを反映したサービスを提供し、地域に信頼されるよう『ブロック制（五ブロックによる運営）』を導入しました。



ごあいさつ

長野県社会福祉事業団 常務理事 宮之本 一宏

また当事業団では、昨年度末現在、入所施設利用者三百十一人の地域生活移行を進め、うち約百八十人が当事業団運営グループホーム等を利用しています。

そこで、ホーム利用者ははじめ障害を持つ皆様がそれぞれの地域の風土や文化にあつた暮らしが送れるよう、本年度長野県大学と共同での「ホーム利用者の検証事業」（日本財団助成）と「事業団第二次長期構想を策定」することとしました。

最後に、被災地、被災者の皆さんには限りなくエールを送りつつ、今回突きつけられた課題を「リスクマネジメント」等、利用者の暮らし創りに活かしていきます。

物語の舞台は

信州 安曇野

連続テレビ小説



平成23年4月4日～10月1日放送
NHK総合テレビほか

東日本大震災

西駒郷にて被災した障害者の一時受入



平成23年3月11日の東日本大震災、そしてその後の東京電力福島第1原発事故は未曾有の大災害として東北各県のみならず我が国全土に甚大な被害をもたらしました。事業団では、県南部の西駒郷で、一時的に福島県いわき市在住の知的障害を持つ方74名を受け入れました。

今回の震災では本当に大勢の方が犠牲となり、そして多くの方が避難生活を余儀なくされています。

そして、われわれ障害福祉業務に従事する者として気にかかるのが、障害を持つ方々の避難生活です。「支援者はいるのか?」「薬は大丈夫か?」「こだわりは?」「パニックは?」「ストレスは溜まっていな

いか?」……。

厚生労働省では、3月15日に被災地の要援護者の社会福祉施設等への受入れを各都道府県に依頼し、3月18日から受入可能人数等を把握して被災県に連絡しています。

この結果、障害者施設の受入可能数は全国で8,949人となり、実際の受入状況(実績)は福島県から515人(うち69人は国立重度知的障害者施設のぞみの園で受入)となっています。(平成23年7月22日14時00分現在 厚生労働省発表資料より)

こういった中、当事業団では「社会福祉法人いわき福音協会」(福島県いわき市)から利用者74名の受入れを行いました。

一時受入の経過

本紙の特集記事(Vol.1)でも取り上げてきましたとおり、西駒郷は入所施設利用者の地域生活移行が進み、東京ドーム3個分もある広大な敷地に点在する生活棟のうち、すでに数ヶ所は閉鎖しましたが、若干の修繕で利用可能となる棟もありました。

こうした中、西駒郷利用者の地域生活移

行をけん引してきた山田優氏(元・西駒郷地域生活支援センター所長)の働きかけもあり、福島県からの要請を長野県が受け、3月24日から4月15日まで西駒郷での一時受入に至りました。

西駒郷での生活

西駒郷では受入れと同時に新聞・有線放送で救援物資の受付を開始しました。

そして、利用者には買い物、スポーツ等の余暇支援や農業をはじめとした作業など、できるだけ普通の生活を送っていただけるように配慮しました。

また、ボランティアとして県内外の法人等から18名が西駒郷に駆けつけてくださいました。

福祉施設の人的被害状況

	利用者			職員		
	死 亡	行方不明	合 計	死 亡	行方不明	合 計
高齢者	453	57	510	68	80	148
障 害	21	21	42	13	8	21
児 童	43	21	64	6	4	10
合 計	517	99	616	87	92	179

いずれも週刊福祉新聞2011年8月8日号より転載
なお、上記の福祉新聞調べは、厚生労働省が地方自治体からの報告を基に5月13日
でまとめた「社会福祉施設の被災状況」に、独自調査の結果を加え集計したものであるが、一部事業所の被災状況等を含んでおらず、被害の全容はいまだにわかっていない状況になっている。

西駒郷での生活風景

(3/24~4/15)

23日間



4/13 軽スポーツ(ソフトボール)



3/24 西駒郷到着



3/11 東日本大震災発生



4/14 障子の張り替え



お花見



西駒郷保護者会からの義援金贈呈



3/29 花の苗植え
(駒ヶ根市社協より)



3/28 おやき贈呈(中沢民生委員会)



4/7 農業(山田さん宅 巨峰農園) 駒ヶ根ソースかつ丼提供(明治亭)



4/15 西駒郷出発『出会えてよかった』



利用者の皆さんは、いわき市に帰る前に西駒郷の障子の張り替えや、貼り絵や折り鶴、そして手作りのぞうきんをプレゼントしてくださいました。本当にありがとうございました。

ふくいんスタッフから一言

社会福祉法人いわき福音協会
障害者総合生活支援センターふくいん 係長



羽賀 典子 さん

3月11日14時46分、今までに体験したことがない揺れが未曾有の東日本大震災でした。

ライフラインの寸断により避難生活を余儀なくされ、同法人の生活介護事業所での生活が始まりました。余震に怯え、水の大切さを知りつつ利用者、職員は不安をつのらせた。

そういった中、西駒郷がいち早く受入れの打診を示して下さり、3月24日、利用者74名職員5名が長野へのバスを走らせました。バスの中は旅行気分(お風呂と食事、ゆっくり寝たい...)。8時間後には西駒郷の皆さんの歓迎を受けました。

久しぶりに味わう入所施設での生活、怯えて暮らした不安は徐々に解消され、沢山の支援者さんの関わり、アルプスの山々に癒され、桜に心が安らぐのを感じました。

4月15日、自分達のホームへと戻りました。現在も余震と原発の不安はありますが、少しずつ落ち着き、日常の生活を取り戻しています。

西駒郷のスタッフ皆さん、県外からの支援者の方々に心より感謝申し上げます。復興に向けて歩んでいます。

今回の西駒郷での 受入れに至る経過はこうだった。

福島県・愛知県相談支援特別アドバイザー 山田 優
(ほっとワークスグループホーム・ケアホームセンター※アドバイザー)



※本紙5ページ「事業所リレートーク」参照

社会福祉法人いわき福音協会（福島県）の本田さん（障害者総合生活支援センターふくいん所長 ＊就労支援・地域生活支援の私の仲間です）から、メールがあったのは3月11日の深夜。内容は「利用者全員の安否確認はできたものの、70名以上が避難生活を始めている」といった内容でした。

そして、翌日の炉心溶解と水素爆発後の3月17日には「現在、GH等の入居者関係で160名ほどの知的障害者が避難生活を送っているが、今回の福島原発被害で（圏外への）避難を考えなければならぬ。受け入れ可能な場所の情報をいただきたい。」とのメールが。

3月11日以後、私は受け皿を含めて関係調整をしてきましたが、西駒郷のように大規模施設から地域生活への移行を進めている公立施設のキャパは元々空いており、通電・通水・通燃料・暖房等を復旧すればすぐに使用可能となるはずと考え、厚労省専門官に提案しました。

すると、厚生労働省も（すでに動き始めていた）3月24日の西駒郷での受入れに間に合わせるように、特な後方支援として事務連絡を厚労省専門官が出してくれました。つまり、大震災に伴う支援のスキーム（仕組）は、西駒郷での受入・支援実践が

裏付けとなり、国立コロニーのぞみの園での受入れにもつながっていったのだと思います。

そして、いわき福音協会のスタッフには、次のように提案しました。

- ①避難先がバラバラとならないよう、事業所単位（2〜3箇所）の固まりで支援計画を組む
- ②支援職員がバーンアウトしない様に支援員は複数名を配置する
- ③できるだけ丁寧に本人の意向を聴き、避難場所の選択をしていただく（自分で避難先を選択するプロセスを重視）
- ④国都道府県からの介護職員等派遣を、東北地方に届けるだけでなく、避難先となった都道府県に近い都道府県からも支援を組み合わせる分かち合いを推奨。
- ⑤とにかく、だれかがコーディネーター役を担うこと

凄いの、こうした不安状態の中で、丁寧に本人たちと向き合い、避難先を調整し送り出そうとしている、「ふくいん」のスタッフですし「法人」ですし「本田さん」です。

また、連絡ですぐ動き出した「長野県」ですし「長野県社会福祉事業団」も素早

かった。

緊急時は、スキームがあつて動くのではなく、後からついてくるという姿勢で積極果敢に向き合うことでしょう。

今後の長野県社会福祉事業団には、例えばこうした荒ぶる行動・開拓者の発想・独立心ある提案を恐れない姿勢を持ち、育つよう願っています。



「ふくいん」スタッフとボランティアの皆さん（前列中央が山田氏）

まとめ

今回の特集記事をまとめるにあたり、前述の山田さんに被災地における障害を持つ方々の状況について伺ったところ、要支援者リストどころか、住民票自体が確認できないという自治体もあり、さらに今回の震災を機に障害が顕在化したケースもあるため、全容はつかみきれないとのことでした。

こういった中、山田さんは行政と現場の二重苦との乖離を埋めるべく、現在も奔走中とのことでした。

さて、当事業団では昨年度、リスクマネジメントの指針を定め、今年度は各事業所においてその指針に基づいた計画を策定しています。

しかし、その指針は今回のような未曾有の災害を想定したものではなく、あくまでも想定内のリスクに対するものであり、こうした危機的状況に陥った際、我々に何ができるのか想像すらできません。

当事業団では取り組みの一つとして「地域住民との繋がりが何よりの防災」という観点から、利用者それぞれが生活する地域において「顔と顔が見える関係づくり」を進めています。

また、近年、当県知障協の加盟団体や近隣の事業団単位で、「被災時におけるネットワークづくり」について検討されており、積極的に参画を進めているところです。

最後に、被災された皆様が一日でも早く今までの暮らしに近づけるよう、当事業団として今後も微力ながら継続して支援していきます。（中村）

長野県社会福祉事業団では、職員から受け付けた1,300,000円を、義援金として4月15日に中央共同募金会を通じて被災地の方々に寄付いたしました。



① 八雲日和（やぐもびより）

～多機能型支援事業所として再スタート！～

平成23年1月、「八雲作業所（知的障害者通所授産施設）」は、新事業体系移行（就労継続支援B型事業）を機に、隣接する「八雲日中活動総合センター（生活介護事業・自立訓練（生活訓練）事業）」と統合し、多機能支援事業所「八雲日和（やぐもびより）」として再スタートしました。

開所以来取り組んでいる「うどん」「おやき」の製造・販売や農作業などの自主生産活動のほか、新たにリサイクル活動の一環とした缶の仕分け作業を導入するとともに、『私たちの活動を通じてみんなの笑顔が見たい！』との思いから、地元の公共施設にプランターを設置し、花の



水やり・管理を始めました。

約半年が経過し、利用者も生産活動や創作活動など互いに協力しながら行ったり、季節の行事などを合同で行う中で、今まで以上に仲間意識が高まってきました。

「八雲日和」は今後も、利用される皆さんの大切な一日をサポートさせていただく「陽だまりのような施設」づくりを目指したいと思います。（清水）



③ ほっとワークスグループホーム・ケアホームセンター

～公用車15台をフル稼働！多様なニーズに応えます～



「ほっとワークスグループホーム・ケアホームセンター」は、主に西駒郷から地域生活移行を果たした方々のホーム設置を進めており、平成23年4月に新たに「高遠陽だまりホーム」と「せせらぎホーム」の

2ヶ所を開設し、計25ホーム、利用者125名となりました。

また、利用者の余暇活動や通院などのニーズに応えられるよう「居宅介護等事業」も展開しています。

各ホームは、長野県南部（上伊那圏域）の広範囲に点在しており、日々の生活支援はもちろん、月1～2回の健康相談や通院等のため、今年度は公用車を4台増やし、計15台をフル稼働させて支援にあたっています。

年々、重度化・高齢化が進み、利用者ニーズが多様化してきていますが、地域の中で豊かに楽しく暮らすことができるよう、利用者に寄り添いながら、より一層支援内容を充実させていきたいと思っています。（森）



② サンスポートまつもと

～希望があれば、どこへでも出向きます！～



「サンスポートまつもと」は、長野県障害者福祉センター『サンアップル』の3ヶ所あるサテライトの1つです。

サンアップルのように体育施設がないため、「どこでもスポーツ・運動教室」などの移動教室が主な活動です。

また、長野県の自然環境を生かした障害者スキー教室や、指導者や関係者に向けてのバيسキーサポート技術講習会を開催したり、多くの人、団体、地域と連携し、水泳やサッカー教室、卓球やボッチャの大会、サポート技術講習会、体育館開放事業など、様々なスポーツ活動や地域スタッフの育成も行っています。

地域に密着した障害者スポーツの発展のために、障害分野に関わらず幅広いつながりをもち、多様なスポーツ環境づくりを進めていきます。（太田）





「自立」「生きがい」を求めて A型事業所「わーく西駒」の取り組み

西駒郷は平成23年4月1日に、障害者自立支援法に基づく新事業体系に移行し、就労継続支援A型事業「わーく西駒」(定員15名)(以下「A型事業」と表記)を開始しました。

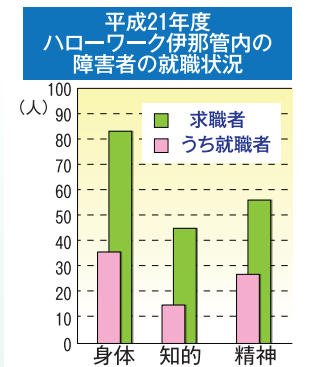
A型事業導入のきっかけの一つは、ハローワークで一般就労を希望する障害者の就職状況を調査したところ(グラフ1参照)、三障害いずれも半数以上が実現できていないことが明らかとなり、この就労ニーズに応える必要性を実感したためです。

A型事業所は、全国的にも長野県内でも、まだ大変少ない状況にあり、平成23年8月11日現在、全国で797ヶ所、県内では19ヶ所にとどまっています。(WAMNET 障害福祉サービス事業者情報より)

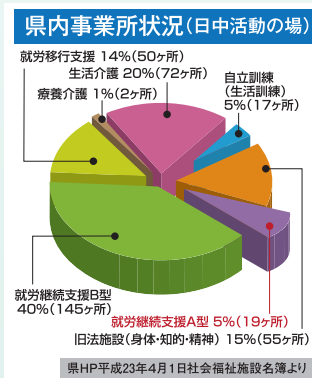
理由として、最低賃金保障のハードルや日額報酬による経営上の課題等が考えられます。

当然、「わーく西駒」においてもこうした課題は存在していますが約4ヶ月経過した中で、働いてる利用者の活き活きとした姿を見ると、必ず成功させなければならないと決意させられる毎日です。

グラフ1



グラフ2



長野県最低賃金 693円保障を目指す

A型事業は事業主と利用者が雇用契約を締結するところに最大の特徴があります。従って、利用者は労働者となり最低賃金の支払いが原則必要となるとともに労働法規が適用になります。

「わーく西駒」では、現在11名の利用者が就労しており、そのうち8名は、最低賃金を保障していますが、その他の方には、労働能力等により「最低賃金の減額の特例許可制度」を利用させていただいています。

その結果、現在の賃金は月額5万円から7万円程度で、今後は全利用者に最低賃金保障ができるよう支援・努力していきます。

どら焼きと豆腐作りに挑戦!

A型事業として二つの建物で事業展開しています。

「西駒会館」では食事や宿泊サービスを提供し、また旧給食棟を改修した「信州まめ匠」では、どら焼きと豆腐

の製造・販売を行っています。
なお、本紙特集記事(Vol.2)でも取り上げてきましたとおり、「自主作業(製造・販売)」は、「生産の喜び、社会との繋がり」を得ることができ、皆さん活き活きと作業に取り組んでいます。



信州まめ匠

「自信」と「夢」



利用者の皆さんに
聞きました!

西駒郷「わーく西駒」 支援員
根村 隆司

利用者の皆さんは、本当によく働いています。皆さんに「わーく西駒」での感想を尋ねると「自信」や「夢」に溢れた言葉が次々と飛び出しました! これからも、仕事をする喜びを皆さんに感じて頂けるようなお手伝いをしていきたいと思います。

今は、自転車で通勤しているけど、お金が貯まったら車の免許を取りに行きたい。

最初、仕事を覚えるまでが大変だったけど、今は、仕事の流れも分かり自信がついた。

家族と会話することが多くなった。

早くお金を貯めて一人暮らしをしたい。

仲間みんなから生き生きしていると言われ、生活に自信が持てるようになった。



長野大学との共同研究による 知的障害者の地域生活移行に関する 地域生活実態調査・検証事業スタート!

当事業団は平成18年度、19年度と日本財団から助成をいただき「長野県西駒郷の地域移行評価・検証に関する研究事業」を実施し、グループホーム等利用者（以下「GH利用者」と表記）の生活環境の改善等に関する課題を明らかにしてきました。

しかし、この調査は「GH利用者のみを対象とした調査であったため客観性を欠いていた」という反省点から、今回、新たに地域住民や市町村関係者を含めた多面的な調査を実施することとしました。

なお、本事業実施にあたっては再度、日本財団から助成をいただくとともに、長野大学附属地域共生福祉研究所との共同研究として、現在、研究所研究員の旭教授、野村教授、高木講師と事業団職員で調査項目及び聴き取り方法等について検討を重ねています。



近隣のスーパーで買い物をする利用者



日本財団 The Nippon Foundation 助成事業

本調査の目標と特徴

目標①

『GH利用者』それぞれの「地域」「風土」にあったライフスタイルの提案と具現化]

GH利用者のみならず世話人、地域住民、市町村関係者を含めた「地域生活実態調査」を実施し、その結果を多面的に検証することで、各GHの地域性やGH利用者の障害特性等も加味した「地域生活」を提案します。

目標②

【知的障害者（意思伝達が困難な利用者含む）に対する調査方法のマニュアル作成】

当事業団各事業所で実施する「顧客満足度調査」の回答率が約50%という現状も踏まえ、今回、長野大学及びドロップレット・プロジェクト[®]の協力のもとに「意思伝達が困難な利用者を含む聴き取りマニュアル」を作成し活用します。

目標③

【『地域住民』『学生』等に対する障害者理解の増進】

今回の事業を通じ、地域住民、学生等に対する障害者理解の増進を図ります。

「駒ヶ根高原ふくしセミナー」 プレイベント開催!!

10月22日(土)

会場：長野県西駒郷(駒ヶ根市下平2901-7)

①信州駒天(こまてん) 駅伝大会

参加資格：知的に障害をお持ちの方または養護学校に在籍する方

競技方法：1チーム4人～8人

全6km (1.5kmの周回コース4周)

(1人1.5km (1周) または750m (半周))

※大会要項等は後日、当事業団ホームページにて掲載します。

10月23日(日)

会場：駒ヶ根総合文化センター(駒ヶ根市上穂栄町23-1)

②知的障害者の地域生活移行に関する地域生活実態調査・検証事業中間報告会

③ワークショップ

- ・「まゆクラフト体験」
(講師：駒ヶ根シルクミュージアム)
- ・「墨あそび」(講師：関孝之氏)



※ドロップレット・プロジェクトとは



コミュニケーションに障害を持つ方のために図形シンボルとシンボル活用のウェブアプリケーションを提供する取り組み。 HP:<http://droplet.ddo.jp/>



担当教授からの一言

長野大学 社会福祉学部

野村 健一郎 教授

グループホームの実態調査に向けて、学生の関心と知識を高めるために、特別講義を開講したところ、全52名の学生が受講登録をしました。

また、私のゼミナールでは26名の学生が、グループディスカッションをして同講義内容を深めています。

社会福祉事業団職員の実践の講義内容を理論につなげていく帰納的展開を図りながら、多くの学生が実態調査に参加するように動機づけが高まることを期待しています。

なお、このような中で、10月の大学祭において、ゼミの学びを展示発表することが決定されるなど、学生の関心が高まっています。



【長野ブロック】

①水内荘

・施設入所支援事業（定員40人）、生活介護事業（定員68人）
・短期入所事業（併設型10人）

②水内荘グループホーム・ケアホームセンター

・共同生活援助・共同生活介護事業（12ホーム 定員59人）

③長野圏域障害者総合支援センター歩案里

・居宅介護等事業
・相談支援事業、タイムケア事業ほか

④八雲日和

・就労継続支援B型事業（定員25人）、生活介護事業（定員14人）
・自立訓練（生活訓練）事業（定員6人）

⑤長野市地域活動支援センターこぶし

・地域活動支援センター事業（定員15人）

ブロック長 堀米 信一（水内荘所長）

副ブロック長 小島 健一（水内荘支援課長）

②0法人本部(事務局)

・事業団が経営する各事業所の管理運営における調整
・介護福祉士等修学資金貸与事業 ほか

【障害者福祉センターブロック】

①6長野県障害者福祉センター「サンアップル」

・障害者のスポーツ・文化活動支援事業

①7サンスポート駒ヶ根

・サンアップルの南信サテライト

①8サンスポートまつもと

・サンアップルの中信サテライト

①9サンスポート佐久

・サンアップルの東信サテライト

ブロック長 寺沢 博文
（障害者福祉センター所長）

副ブロック長 関口 一道
（障害者福祉センタースポーツ課長）

【松本ブロック】

⑥信濃学園

・知的障害児施設入所事業（定員30人）
・短期入所事業（空床型）、日中一時支援事業



⑦松本あさひ学園

・情緒障害児短期治療施設（入所30人、通所5人）



⑧松本ひよこ

・生活介護事業（定員21人）、就労移行支援事業（定員10人）
・共同生活援助・共同生活介護事業（4ホーム 定員23人）
・重度障害者等包括支援事業（定員5人※上記再掲）

ブロック長 清水 剛一
（信濃学園所長）

副ブロック長 佐藤 靖
（信濃学園総務課長）

副ブロック長 小宮山紀道
（松本あさひ学園治療支援課長）

【上伊那北部ブロック】

⑨ほっとワークスグループホーム・ケアホームセンター

・共同生活援助・共同生活介護事業（25ホーム 定員125人）
・居宅介護等事業

⑩伊那ゆいま〜る

・生活介護事業（定員15人）、就労継続支援B型事業（定員20人）

⑪ほっとワークス・みのわ

・就労継続支援B型事業（定員20人）

⑫辰野町障害者就労支援センター「工房ぬくもり」

・就労継続支援B型事業（定員20人）

⑬辰野町地域活動支援センター

・地域活動支援センター事業（定員20人）

ブロック長 降旗 正章
（ほっとワークスGH・CHセンター所長）

副ブロック長 埋橋 行雄
（伊那ゆいま〜る所長）

【上伊那南部ブロック】

⑭西駒郷

・施設入所支援事業（定員170人）、短期入所事業（空床型）
・生活介護事業（定員156人）、自立訓練（生活訓練）事業（定員12人）
・就労継続支援A型事業（定員15人）、就労移行支援事業（定員13人）
・就労継続支援B型事業（定員54人）、自活訓練事業

⑮上伊那圏域障害者総合支援センター「きらりあ」

・相談支援事業、障害児等療育支援事業
・精神障害者退院支援コーディネート等事業



ブロック長 原 雅章（西駒郷所長） 副ブロック長 滝 茂樹（西駒郷次長）

平成23年度 事業計画・収支予算書

【管理部門】

I ブロック制導入

地域福祉充実と効率的運営の観点から事業団事業所を5グループに分割し、各地域グループ単位で特色ある事業経営の確立をめざした「ブロック制」を導入します。

II 第二次長期構想策定

事業団事業の検証と今後に向けた事業の拡充や経営方針を明らかにするため、平成24年度から28年度まで〈5年間〉の長期構想の策定を行います。

III 目標管理制度の結果の給与への反映

「目標管理制度」のさらなる定着化を図り、その結果を勤務評価制度へ反映します。

【支援部門】

I 信濃学園、松本あさひ学園、きらりあの受託、重度障害者等包括支援事業の開始

今年度より新たに「信濃学園」、「松本あさひ学園」、「上伊那圏域障害者総合支援センターきらりあ」の運営を開始します。

また松本ひよこにおいて新たに重度障害者等包括支援事業を開始します。

II 新規採用職員37人の配属

事業拡大に伴い、新規採用職員37名を4月1日付にて各事業所に配属します。

III 「駒ヶ根高原ふくしセミナー」プレイベント開催

平成24年度「駒ヶ根高原ふくしセミナー」の開催に向け、今年度は10月22日、23日に「プレイベント」を駒ヶ根市で開催します。

IV 「知的障害者の地域生活移行に関する地域生活実態調査・検証事業」

日本財団の助成を受け、長野大学との共同研究として当事業団が運営するホーム等利用者の地域生活実態調査と検証を行います。

V 全事業所新事業体系での運営

当事業団が運営する障害者支援施設は平成23年4月に全て「障害者自立支援法」に基づく新事業体系に移行します。

平成23年度 収支予算総括表(法人合算)

(単位：千円)

区 分	本年度予算額	前年度当初予算額	増 減	区 分	本年度予算額	前年度当初予算額	増 減
就労支援事業収入	89,101	55,752	33,349	就労支援事業支出	89,101	55,752	33,349
利用料収入等	1,590,168	1,475,658	114,510	人件費支出	1,918,369	1,418,219	500,150
受託事業等収入	1,032,342	553,105	479,237	事務費支出	411,679	294,648	117,031
会館事業収入	0	5,146	△ 5,146	事業費支出	534,421	496,522	37,899
補助事業等収入	83,757	77,626	6,131	その他支出(※注3)	321,950	119,899	202,051
寄附金収入	1,750	6,910	△ 5,160	小 計	3,186,419	2,329,288	857,131
その他収入(※注1)	352,777	138,975	213,802	施設整備等支出	323,612	155,925	167,687
小 計	3,060,794	2,257,420	803,374	借入金元金償還金支出	18,493	15,126	3,367
施設整備等収入	192,041	43,399	148,642	積立預金積立支出	26,775	27,991	△ 1,216
借入金収入	4,537	38,515	△ 33,978	その他の支出(※注4)	8,005	6,792	1,213
積立預金取崩収入	332,687	181,000	151,687	小 計	53,273	49,909	3,364
その他の収入(※注2)	20,176	17,703	2,473	合 計	3,652,405	2,590,874	1,061,531
小 計	357,400	237,218	120,182	当期資金収支差額	46,931	2,915	44,016
合 計	3,699,336	2,593,789	1,105,547	前期末支払資金残高	426,822	341,241	85,581
				当期末支払資金残高	473,753	344,156	129,597

注1 「経常収入」の「その他収入」は「雑収入」、「受取利息配当金収入」、「経理区分間(会計単位間)繰入金収入」の合計額とした。

注2 「財務収入」の「その他収入」は、「長期貸付金回収収入」の合計額とした。

注3 「経常支出」の「その他支出」は「経理区分間(会計単位間)繰入金支出」の合計額とした。

注4 「財務支出」の「その他支出」は、「長期貸付金支出」の合計額とした。

1 経営組織体制の確立

- ① 県立障害児施設の指定管理受託への取り組み
- ② 西駒郷企画推進課及び企画販売促進係の新設
- ③ 西駒郷しらかば寮の閉寮
- ④ 事業団研修の充実
(レベルアップ研修4回 延べ288人参加、心理・支援員研修6回 等)

2 管理業務の充実

- ① 事業団倫理綱領の策定
- ② 西駒郷就労継続支援A型事業開始に向けた改修工事

3 情報発信

- ① 事業団機関紙「やまなみ」発行(夏・冬2回 各3,000部)
- ② 「駒ヶ根高原ふくしセミナー」開催に向けた検討

4 提供するサービスの質の向上

- ① 利用者一人ひとりのニーズに応じた支援
- ② サンアップル第1回サッカーフェスティバル開催(対象:知的障害児・者)
- ③ 就労事業所の工賃アップ

就労支援事業所の平均工賃/月 (単位:円)

事業所	八雲 日和	松本 ひよこ	伊那 ゆいま〜る	ほっと ワークス・ みのわ	辰野町障害 者就労支援 センター	西駒郷 生業部
平成21年度	25,000	11,700	8,118	19,757	16,533	6,687
平成22年度	25,238	11,935	9,230	24,291	20,410	9,254

5 入所施設利用者の地域生活移行の推進

- ① 地域生活移行14人(水内荘4人、西駒郷10人)
- ② グループホーム・ケアホーム4ヶ所設置

名 称	開設日	定員	住所
服部ハイツ	H23. 1. 1	6人	長野市
波田しなのハイツ (※重度障害者等包括支援事業)	H23. 4. 1	5人	松本市
松崎ホーム	H22. 4. 1	4人	駒ヶ根市
高遠陽だまりホーム	H23. 3. 31	6人	伊那市

6 セーフティネット機能の充実

- ① 短期入所事業の充実
(水内荘:5.82人/1日、西駒郷:2.76人/1日)
- ② 居宅介護等事業の充実
(歩楽里:12,423.5時間/年、ほっとGH:10,559時間/年)

7 地域福祉サービス体制の整備

- ① 高齢者支援の方法等の検討(退行アセスメントシートの作成)
- ② ホーム等利用者検証事業の準備



指定管理プレゼンテーション検討風景



西駒郷就労継続支援A型事業所「信州まめ匠」



やまなみ



サッカーフェスティバル(東御市)



波田しなのハイツ

平成22年度 収支決算書（法人合算）

資金収支計算書

（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

動による収支	収入 支出	勘定科目			予算	決算	差異
就労支援事業活動	収入	就労支援事業収入			61,086,000	60,817,777	268,223
		就労支援事業収入計(1)			61,086,000	60,817,777	268,223
	支出	就労支援事業支出			61,086,000	60,817,777	268,223
		就労支援事業支出計(2)			61,086,000	60,817,777	268,223
		就労支援事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)			0	0	0
福祉事業活動による収支	収入	自立支援費等収入			476,704,000	468,210,352	8,493,648
		利用料収入			805,916,000	816,209,311	△ 10,293,311
		私的契約利用料収入			219,633,000	218,152,706	1,480,294
		受託事業等収入			1,079,922,000	1,080,990,437	△ 1,068,437
	収入	会館事業収入			5,146,000	5,723,358	△ 577,358
		補助事業等収入			86,254,000	92,811,649	△ 6,557,649
		寄附金収入			30,602,000	31,027,037	△ 425,037
		雑収入			19,604,000	19,528,031	75,969
		受取利息配当金収入			5,050,000	5,408,605	△ 358,605
		会計単位間繰入金収入			92,901,000	90,996,399	1,904,601
		経理区分間繰入金収入			289,470,000	289,291,704	178,296
		福祉事業収入計(4)			3,111,202,000	3,118,349,589	△ 7,147,589
	支出	人件費支出			1,431,201,000	1,400,298,791	30,902,209
		事務費支出			315,547,000	296,960,794	18,586,206
		事業費支出			488,099,000	450,005,033	38,093,967
	支出	借入金利息支出			3,295,000	2,555,566	739,434
		経理区分間繰入金支出			293,653,000	291,460,713	2,192,287
		会計単位間繰入金支出			637,181,000	616,190,871	20,990,129
		福祉事業支出計(5)			3,168,976,000	3,057,471,768	111,504,232
		福祉事業活動資金収支差額(6)=(4)-(5)			△ 57,774,000	60,877,821	△ 118,651,821
施設整備による収支	収入	施設整備等補助金収入			91,868,000	45,740,000	46,128,000
		施設整備等収入計(7)			91,868,000	45,740,000	46,128,000
	支出	固定資産取得支出			238,708,000	221,935,677	16,772,323
		施設整備等支出計(8)			238,708,000	221,935,677	16,772,323
		施設整備等資金収支差額(9)=(7)-(8)			△ 146,840,000	△ 176,195,677	29,355,677
財務活動による収支	収入	借入金収入			38,893,000	31,311,050	7,581,950
		積立預金取崩収入			268,463,000	257,538,694	10,924,306
		その他の収入			18,854,000	11,905,349	6,948,651
	収入	財務収入計(10)			326,210,000	300,755,093	25,454,907
	支出	借入金元金償還金支出			15,596,000	13,785,905	1,800,095
		積立預金積立支出			178,860,000	178,825,412	34,588
		その他の支出			6,829,000	6,119,670	709,330
	支出	財務支出計(11)			201,275,000	198,730,987	2,544,013
		財務活動資金収支差額(12)=(10)-(11)			124,935,000	102,024,106	22,910,894
		予備費(13)			0	0	0
		当期資金収支差額(14)=(3)+(6)+(9)+(12)-(13)			△ 79,679,000	△ 13,293,750	△ 66,385,250
		前期末支払資金残高(15)			349,639,000	426,831,397	△ 77,192,397
		当期末支払資金残高(16)=(14)+(15)			269,960,000	413,537,647	△ 143,577,647

注：法人合算にて資金収支計算書を表記する関係上、勘定科目は「就労支援の事業の会計処理の基準」による。

事業活動収支計算書

（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

活動による収支	収入 支出	勘定科目			本年度決算	前年度決算	増 減
就労支援事業活動	収入	就労支援事業収入			60,817,777	54,394,211	6,423,566
		就労支援事業活動収入計(1)			60,817,777	54,394,211	6,423,566
	支出	就労支援事業支出			60,634,355	54,047,341	6,587,014
		就労支援事業活動支出計(2)			60,634,355	54,047,341	6,587,014
		就労支援事業活動収支差額(3)=(1)-(2)			183,422	346,870	△ 163,448
福祉事業活動収支の部	収入	自立支援費等収入			468,210,352	321,292,194	146,918,158
		利用料収入			816,209,311	892,256,529	△ 76,047,218
		私的契約利用料収入			218,152,706	216,856,155	1,296,551
		受託事業等収入			1,080,990,437	1,148,565,750	△ 67,575,313
	収入	会館事業収入			5,723,358	5,756,374	△ 33,016
		補助事業等収入			92,811,649	53,533,414	39,278,235
		寄附金収入			31,027,037	22,414,203	8,612,834
		雑収入			19,528,031	19,850,655	△ 322,624
		引当金戻入			41,158,539	72,626,272	△ 31,467,733
		国庫補助金等特別積立金取崩額			36,915,120	33,051,318	3,863,802
		福祉事業活動収入計(4)			2,810,726,540	2,786,202,864	24,523,676
	支出	人件費支出			1,400,298,791	1,333,604,707	66,694,084
		事務費支出			296,960,794	294,420,345	2,540,449
		事業費支出			450,005,033	372,716,903	77,288,130
		減価償却費			104,812,672	91,080,354	13,732,318
	支出	徴収不能額			0	598,600	△ 598,600
		引当金繰入			27,085,630	27,333,526	△ 247,896
		福祉事業活動支出計(5)			2,279,162,920	2,119,754,435	159,408,485
		福祉事業活動収支差額(6)=(4)-(5)			531,563,620	666,448,429	△ 134,884,809
事業活動外収支の部	収入	受取利息配当金収入			5,408,605	6,649,232	△ 1,240,627
		会計単位間繰入金収入			90,996,399	46,137,815	44,858,584
		経理区分間繰入金収入			289,291,704	181,253,717	108,037,987
		事業活動外収入計(7)			386,696,708	234,040,764	151,655,944
特別収支差額の部	収入	借入金利息支出			2,555,566	2,381,888	173,678
		経理区分間繰入金支出			291,460,713	182,500,819	108,959,894
	支出	会計単位間繰入金支出			616,190,871	676,093,713	△ 59,902,842
		事業活動外支出計(8)			910,207,150	860,976,420	49,230,730
		事業活動外収支差額(9)=(7)-(8)			△ 524,510,442	△ 626,935,656	102,425,214
		経常収支差額(10)=(3)+(6)+(9)			7,236,600	39,859,643	△ 32,623,043
繰越活動収支差額の部	収入	施設整備等補助金収入			45,740,000	141,776,000	△ 96,036,000
		施設整備等寄附金収入			0	18,400,000	△ 18,400,000
		その他の特別収入			0	613,032	△ 613,032
		特別収入計(11)			45,740,000	160,789,032	△ 115,049,032
繰越活動収支差額の部	支出	基本金組入額			0	18,400,000	△ 18,400,000
		固定資産売却原価・処分損			85,412	262,883	△ 177,471
		国庫補助金等特別積立金積立額			45,740,000	73,728,000	△ 27,988,000
	支出	その他の特別支出			0	611,174	△ 611,174
		特別支出計(12)			45,825,412	93,002,057	△ 47,176,645
		特別収支差額(13)=(11)-(12)			△ 85,412	67,786,975	△ 67,872,387
		当期活動収支差額(14)=(10)+(13)			7,151,188	107,646,618	△ 100,495,430
		前期繰越活動収支差額(15)			1,383,315,524	1,328,968,111	54,347,413
		当期末繰越活動収支差額(16)=(14)+(15)			1,390,466,712	1,436,614,729	△ 46,148,017
繰越活動収支差額の部	収入	基本金取崩額(17)			0	0	0
		基本金組入額(18)			0	0	0
		その他の積立金取崩額(19)			85,874,700	47,161,901	38,712,799
		その他の積立金積立額(20)			264,041,144	100,461,106	163,580,038
		次期繰越活動収支差額(21)=(16)+(19)-(18)+(20)			1,212,300,268	1,383,315,524	△ 171,015,256

注：法人合算にて事業活動収支計算書を表記する関係上、勘定科目は「就労支援の事業の会計処理の基準」による。

貸借対照表

（平成23年3月31日現在）

資産の部				負債の部			
科 目	当年度末	前年度末	増 減	科 目	当年度末	前年度末	増 減
流動資産	755,349,736	763,591,567	△ 8,241,831	流動負債	341,281,797	336,413,300	4,868,497
現金預金	363,714,015	397,800,581	△ 34,086,566	未払金	311,749,131	306,258,899	5,490,232
未収金	366,414,296	337,987,924	28,426,372	預り金	4,274,892	3,018,879	1,256,013
貯蔵品	295,365	217,555	77,810	前受金	2,638,574	2,325,908	312,666
立替金	552,408	1,012,311	△ 459,903	会計単位間借入金	22,000,000	23,600,000	△ 1,600,000
前払金	647,060	297,500	349,560	経理区分間借入金	0	1,187,306	△ 1,187,306
会計単位間貸付金	22,000,000	23,600,000	△ 1,600,000	仮受金	619,200	22,308	596,892
経理区分間貸付金	0	1,187,306	△ 1,187,306				
仮払金	1,196,300	1,141,520	54,780				
原材料	530,292	346,870	183,422				
固定資産	2,895,664,980	2,653,406,348	242,258,632	固定負債	704,208,856	700,756,620	3,452,236
固定資産（基本財産）	676,417,041	636,776,315	39,640,726	設備資金借入金	184,036,159	166,114,514	17,921,645
建物	626,401,143	591,340,417	35,060,726	長期運営資金借入金	3,568,500	3,965,000	△ 396,500
土地	35,015,898	30,435,898	4,580,000	退職給付引当金	423,075,601	433,715,335	△ 10,639,734
基本財産特定預金	15,000,000	15,000,000	0	全事協退職年金共済引当金	93,528,596	96,961,771	△ 3,433,175
その他の固定資産	2,219,247,939	2,016,630,033	202,617,906				
建物	8,146,415	8,832,656	△ 686,241	負債の部合計	1,045,490,653	1,037,169,920	8,320,733
構築物	4,123,798	2,874,047	1,249,751				
機械及び装置	21,457,825	3,032,094	18,425,741	純財産の部			
車輛運搬具	27,385,391	25,825,545	1,559,836	基本金	33,400,000	33,400,000	0
器具及び備品	39,626,078	48,461,286	△ 8,835,208	国庫補助金等特別積立金	449,249,875	440,424,995	8,824,880
建設仮勘定	11,856,200	0	11,856,200				
権利	519,156	0	519,156	その他の積立金	910,573,920	522,887,476	387,686,444
ソフトウェア	7,340,475	9,552,426	△ 2,211,951	貸付原資積立金	311,319,308	4,524,744	306,794,564
長期貸付金	242,842,752	35,475,256	207,367,496	人件費積立金	285,167,948	285,167,948	0
退職給付積立預金	423,075,601	433,715,335	△ 10,639,734	施設整備等積立金	302,230,464	232,994,784	69,235,680
その他の固定資産	440,627,942	385,108,359	55,519,583	工費変動積立金	11,856,200	0	11,856,200
貸付原資積立預金	311,319,308	448,628,536	△ 137,309,228	次期繰越活動収支差額	1,212,300,288	1,383,315,524	△ 171,015,236
人件費積立預金	285,167,948	285,167,948	0	次期繰越活動収支差額	1,212,300,288	1,383,315,524	△ 171,015,236
全事協退職年金共済預け金	93,528,596	96,961,771	△ 3,433,175	（うち当期活動収支差額）	7,151,188	107,646,618	△ 100,495,430
施設整備等積立預金	302,230,464	232,994,784	69,235,680	純資産の部合計	2,605,524,063	2,379,827,995	225,696,068
資産の部合計	3,651,014,716	3,416,997,915	234,016,801	負債及び純資産の部合計	3,651,014,716	3,416,997,915	234,016,801

人事異動

新規採用

(平成23年4月1日付)

水内荘 支援員／鷺津美紀(支援課、青柳亮(同)、瀧澤圭(同))

八雲日和 支援員／津山奈々、看護師／阿藤公美

信濃学園 主事／柴野美津子(総務課)、栄養士兼主事／二木晴久(同)、支援員／平林さゆり(支援課、河原崎正人(同)、鈴木若菜(同)、林孝行(同)、深川晴奈(同)、赤羽志保(同))

松本あさひ学園 主事兼支援員／金児直哉(総務課、栄養士兼主事／逸見美樹(同)、医師／今井淳子(治療支援課、看護師／守屋美智子(同)、心理治療員／菊池典子(同)、支援員／横山邦典(同)、田嶋里美(同)、北村健一(同))

松本ひよこ 支援員／漆戸利樹、中平亜矢子、上野ひとみ

西駒郷 支援員／上杉晴樹(あすなろ支援課兼駒ヶ根日中支援課、百瀬隆弘(同)、相野田智昭(ひまわり支援課兼駒ヶ根日中支援課)、後藤瑞穂(同)、富松夕貴(同)、丸田かおり(さくら支援課兼駒ヶ根日中支援課、牛丸みゆき(同)、宮澤愛(駒ヶ根日中支援課、玉井靖人(宮田日中支援課、合田成徳(同))

上伊那圏域障害者総合支援センター 心理・支援員／小出千広

障害者福祉センター 指導員／光吉直哉(スポーツ課) 山下真由(同)

事業所間異動等

(平成23年2月14日付)

松本ひよこ 支援員／小河千折(西駒郷支援員)

(平成23年4月1日付)

事務局 事務局長／伊藤敏(事務局次長、事務局次長兼企画課長／林博幸(サンアップル総務課長(再))

水内荘 支援課長／小島健一(兼)

長野圏域障害者総合支援センター歩案里 支援員／木下香織(サンアップル指導員)

長野市地域活動支援センターこぶし 副所長／宮之本一宏(再)

信濃学園 所長／清水剛一(県からの派遣職員)、総務課長／佐藤靖(松本ひよこ所長、専門員／大月美枝子(県からの派遣職員)、支援課長／丸山茂(再)、専門員兼支援第一係長／長田基佳(県からの派遣職員)、専門員／服部美佐子(同)、福岡綾子(同)、宮原英昭(同)、主任看護師／金塚孝司(同)、主任支援員／伊藤千枝(同)、湯澤ゆかり(同)、寺島栄水(同)、支援員／原田信一(同)、小笠原雄二(同)、竹村真史(同)、支援第二係長／小野沢真(事務局付)、専門員／原和彦(県からの派遣職員)、増沢晴彦(同)、有賀洋司(同)、

小林千亜紀(同)、主任支援員／宮尾由美(水内荘主任支援員、竹内紳一郎(西駒郷支援員)、支援員／岡村敏之(県からの派遣職員)、田中智大(同)、心理・支援員／宮島真理(西駒郷心理・支援員、支援員／小山沙織(西駒郷支援員))

松本あさひ学園 所長／工藤伸一(県からの派遣職員)、次長兼総務課長／岡村正人(再)、治療支援課長／小宮山紀道(水内荘支援課長、専門員兼心理治療係長／小口浩司(県からの派遣職員)、主任心理治療員／今井敏弘(同)、心理治療員／足田泰規(同)、心理治療員／山崎晴加(事務局付、男子ユニット係長／増沢広志(県からの派遣職員)、支援員／深井麻衣子(同)、岡村直亮(同)、心理・支援員／小林奈々恵(水内荘心理・支援員、女子ユニット係長／今村秀枝(事務局付)、専門員／唐沢真由美(県からの派遣職員)、支援員／柳澤正美(同)、藤澤稔(西駒郷支援員)、ホームユニット係長／山口博幸(県からの派遣職員)、支援員／西條友理(同))

松本ひよこ 所長／小池忠昭(西駒郷あすなろ寮副寮長)

ほっとワークスグループホーム・ケアホームセンター 所長／降旗正章(兼)、支援員／宮入晃一(兼)

辰野町障害者就労支援センター／辰野町地域活動支援センター 所長／埋橋行雄(兼)

西駒郷 所長／原雅章(サンアップル所長(再)、駒ヶ根支援事業部長／堀沢総夫(西駒郷総務課長、総務課長／北林昌彦(西駒郷庶務係長、企画推進課長／宮下敦志(西駒郷企画推進係長、駒ヶ根日中支援課長／尾野成彦(西駒郷専門員、宮田支援事業部長／矢花尚利(西駒郷企画推進課長)、まっば支援課長／田中一則(兼))

上伊那圏域障害者総合支援センター 所長／辰野恒雄(再)、専門員／埋橋行雄(兼)

障害者福祉センター 所長／寺沢博文(再)、管理係長／佐藤ゆり子(サンアップル主任)、主事／北澤直人(水内荘支援員)

派遣期間終了

(平成23年3月31日付)

西駒郷 所長／岡庭和義(長野県飯田技術専門学校へ)

退職

(平成23年3月31日付)

八雲日和 支援員／林恵里子

辰野町地域活動支援センター 支援員／山崎大介

西駒郷 更生部長／馬場みどり

(平成23年7月31日付)

西駒郷 看護係長／高重美智代

(兼) 他職との兼務職員

(再) 退職後、再雇用職員等

長野県社会福祉事業団
平成23年度職員採用試験

総合職採用試験

一次試験日／平成23年9月18日(日)

一般職採用試験

一次試験日／平成23年10月2日(日)

※詳細は当事業団ホームページからご確認ください。



西駒郷 「信州まめ匠」 駒ヶ根支援事業部長 塩沢 総夫 からのメッセージ

西駒郷の長年の夢であった食品製造・販売をこの4月から開始しました。

豆腐は、地元長野県産の大豆を使用し、凝固剤に伝統的な「にがり」を使用した物と、京豆腐によく使われている「すまし粉」を使用した物、そして「寄せ豆腐」の3種類を製造しています。

どら焼きは、日本一と言われている十勝産の小豆を使用し、豆乳を加えて大変ヘルシーな製品に仕上げてあります。是非一度、ご賞味ください。



駒天豆腐



駒天どら焼き

プレゼント

事業団より「やまなみ」の感想や今後掲載してほしい内容等について、①郵便番号、②住所、③氏名、④電話番号を記載のうえメールまたは郵便はがきにて法人本部(事務局)までお寄せ下さい。

10月末までにお寄せいただいた方の中から抽選で、「チャレンジ・アクション」でも紹介している「西駒郷『信州まめ匠』」の「豆腐・どら焼きセット」を5名の方にプレゼントいたします。

なお、当選発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます。
(プレゼントの発送は11月頃を予定しています)

先日、学生時代を過ごした「第2の故郷」仙台で被災した友達に会ってきました。彼の力強い眼光やいつもと変わらぬ笑顔は、地震が「人の心と希望までは奪えない」ことを教えてくれました。
なでしこJAPANも神がかり的な優勝を納め、日本全体が一体感を持って明るい方へ向かっている気がします。

今年の夏は、土日と夏季休暇を万遍なく使わせていただき、微力ながら仙台で何かしてきたいと思っています！「がんばろう！日本」(真鍋)

編集後記

掲載記事の内容等についてのお問い合わせ及びプレゼントの応募はこちらまでお願いします。



社会福祉法人
長野県社会福祉事業団

〒380-0928 長野市若里七丁目1番7号 長野県社会福祉総合センター5F
tel : 026-228-0337 fax : 026-228-0310
URL : <http://park19.wakwak.com/~nagano-shafuku-j/>